

岡山県から兵庫県にかけての淡水カメ相の変化

重政恒・森川智広・藤田浩輔・亀崎直樹

岡山理科大学生物地球学部生物地球学科

Turtle fauna in area from southwest Hyogo to southeast Okayama.

By Hisashi SHIGEMASA, Tomohiro MORIKAWA, Kosuke FUJITA and Naoki KAMEZAKI

Department of Biosphere-Geosphere Science, Okayama University of Science

はじめに

現在、日本に生息している主な淡水棲カメ類は、ニホンイシガメ、ミシシippアカミミガメ、クサガメの3種であるが、在来種はニホンイシガメのみで、他の2種は外来種だと言われつつある。ニホンイシガメは外来種2種の影響を受けていると考えられ、それら3種の動向が危惧される。そこで筆者は、都市化を免れている岡山県赤磐市から兵庫県太子町にかけてのため池のカメを調べ、淡水ガメ3種の分布について知見を得たので報告する。

調査地と調査方法

2015年6月26～27日と同年9月13～14日の2回にわたって調査を行った。調査地は岡山県赤磐市から兵庫県太子町にかけてのため池14か所でカメの捕獲調査を行った。調査地の所在は、岡山県では和気郡1池、備前市5池の合計6池、兵庫県では、赤穂郡1池、赤穂市1池、相生市2池、たつの市2池、揖保郡太子町2池の合計8池を調査した。捕獲方法はカメ網を用いて捕獲を行い、餌は魚、カメ網は1日目に設置し、翌日に回収を行った。捕獲したカメは、背甲長(CL)、背甲幅(CW)、腹甲長(PL)、体重(BW)を計測し、個体識別用の標識を付けて放流した。

調査結果

まず初めにCPTとは、捕獲個体数を設置網数で割った数値であり、カメの大まかな密度の指標として用いている。岡山県から兵庫県にかけてのため池には淡水ガメ3種が生息していることが確認された。合計86個体のカメが捕獲され、最も多く優占しているのはクサガメ(合計63個体)で、14池中9池(64%)で捕獲され、全体のCPTは0.9であった。次に多いのはアカミミガメ(合計16個体)で、14池中3池(21%)で捕獲され、CPTは0.2であった。また、ニホンイシガメ(合計7個体)は5池(35%)で捕獲されCPTは0.1と最も少なかった。クサガメ、ニホンイシガメ共に標高による分布の偏りは見られなかったが、アカミミガメの捕獲された3池では比較的標高が低い傾向にあった。

考察

調査地全域に分布しているのはクサガメである。もし、クサガメが導入された種とするならば、イシガメの生息地に侵入しつつあり、種が交代しつつある状況かもしれない。アカミミガメが捕獲された池は兵庫県より岡山県寄りの方が多く、アカミミガメが兵庫県播磨地区のアカミミガメ高密度域の影響を受けていないことがわかった。イシガメの生息する池は兵庫県寄りに2カ所、岡山県寄りに1カ所で、局所的に集中しているわけではなかった。これに対して、クサガメは全域に分布しており、イシガメが各地で消えていき、かろうじて生き残っている状況を感じた。アカミミガメが捕獲された池は3池と少ないが、その内2池ではアカミミガメのみしか捕獲されていない。このことから、アカミミガメは池に侵入してから短期間で他のカメ2種と置き換わってしまうことが考えられる。アカミミガメが短期間で置き換わると仮定すると今後、岡山県から兵庫県にかけてのカメ相はアカミミガメが増加していくと予想される。